

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

一点の曇りもない心で歩いていく 福地茂雄（アサヒビール社友、元社長、元 NHK 会長）

1. 「アンダーセン発展の秘密」の著者・森田松太郎氏は、序文に次のように記しています。「一つの組織が一世紀近くにわたって存続するのも珍しいことだが、存続しながら発展を続けていくのはさらに稀有である。アーサー・アンダーセンが 1913 年に会計事務所を創設してから 85 年成長を続けた」・偉大な発展を成し得たのは、創業の理念である「正直さ一貫性」が時代を超えて共有されていたからだ。
2. しかし、その理念は次第に薄れ、企業文化は変質した。それが予測不可能な事態まで会社を追い込んでいったのです。折しも監査を担当していたエンロン社は、業績悪化から崩壊の一途でした。エンロン社の業績悪化に関する書類はシュレッダーにかけられ、調査に必要な証拠書類は処分されていました。アンダーセンの社員が証拠隠滅工作に加担したとみられ、これが原因でアンダーセンは消滅しました。
3. 「李下に冠を正さず」という言葉があります。人から疑いをかけられるような行いは避けるべきだという先人の戒めです。私たちはここで初心に戻り、一点の曇りもない純白な心で歩いていくべきです。

(参考:「致知」2019年4号)

人事・労務について

給料以上のインセンティブを

藤田浩之（米国国務省長官顧問などを歴任）

1. 日本も米国も資本主義国家で、市場経済のもとで社会は動いている。企業が賃金をどのように決めるかは、いくつもの要素が絡み合う非常に複雑な問題だ。しかし、賃金だけで従業員を引き留めようとするやり方は、賃金競争に陥り限界があると思う。賃金だけでは測れない「働きがい」「やりがい」「よろこび」また「社会貢献しているプライド」などの価値観をしっかりと企業の文化として醸成させていくことが非常に大切だと考えている。
2. 企業を持続的に維持・成長させるには、たとえ賃金上昇率が他の会社より低くても、給料の額だけでなく、「この会社で仲間とともに働きたい」と従業員に強く感じてもらえる企業文化を育むことが経営者にとってなにより重要だ。

(参考:「WEDGE」:2019年4月号)

ワンポイント経営アドバイス

イノベーションは誰でも起こせる

西口尚宏（ジャパン・イノベーションネットワーク専務理事）

1. 新しい価値を生む。それは、イノベーションを起こすことにほかなりません。イノベーションはよく技術革新といわれますが、それは誤解です。新しい価値を創造することが本来のイノベーションの意味です。企業の統合においては、新しい会社が社会にどんな価値を提供するか、という視点が大事になります。
2. イノベーションにはもう一つの誤解があるように思います。社内の変わり者がたまたま起こすといった考え方です。いわば、アートの世界と同じだ、と。でもイノベーションは誰でも起こせます。大事なのは現状に満足しないこと。現状を変えようとするのがイノベーションの一步となります。

(参考:「日経ビジネス」2019年3月18日号)

古典に学ぶ

勉強心の強い国ほど国力が発展

(解説) そこでこれを働かせるとうことは、すなわち勉強してこれを行うことであって、この勉強が伴わないと、百千の知も何ら活用をなさぬ。しかしてその勉強も、ただ一時の勉強では十分でない。終身勉強して始めて満足するものである。勉強の強い国ほど国力が発展している。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)